

朝倉城(特無)(指定無)(養父市八鹿町朝倉字坂)

朝倉城（あさくらじょう）は、兵庫県養父市八鹿町にあった日本の城。

概要

但馬国朝倉は後に戦国大名として越前国を治めた朝倉氏の発祥の地である。平安時代末期に地名を苗字として朝倉氏が興り、朝倉高清を初代とした。朝倉城は鎌倉時代、朝倉信高の築城と伝えられている。堀切や郭が残る。

Wikipedia による

戦国大名として越前国（福井県）を治めた朝倉氏の発祥の地になります。朝倉氏は孝徳天皇の皇子、表米親王を始まりとします。平安時代末期に地名を苗字として朝倉氏が興り、朝倉高清を初代としました。その中から八木氏、宿南氏、奈佐氏などの多くの武将を輩出しています。朝倉城は集落の南西の丘陵にあり、東西130m、南北110mの規模をもちます。室町期に作られた城郭を堀切や堅堀で戦国期に改修して守りを固めています。宝篋印塔はお経をおさめた供養塔です。高さは230センチメートルあり、塔身の月輪内には金剛界四仏の梵字をきざみます。室町期の十五世紀ごろの造立と推定されています。

「やぶ市観光協会」サイトによる

